

シンポジウム「八戸で語る 安藤昌益の21世紀」

江戸時代に八戸で活躍した思想家、安藤昌益。徹底した男女平等やエコロジーといった、封建時代当時に世界的にも類を見ない極めて独創的な彼の思想が、21世紀の現代にどのような形で通じうるものかを探る。

「さて、昌益先生の思想であるが、ひと言やふた言では言いかねる。

— 世界で最初に「働かざる者は喰うべからず」と喝破した。

— 世界で最初に「男女同権」を唱えた。

— 世界で最初に「万人平等」を説いた。

— 世界で最初に「開発の害」に言及した。

— 世界で最初に「環境保護」を訴えた。

どれも正しい。」 — 井上ひさし「昌益先生の辞典」より

出典：『ニホン語日記』文春文庫所収「ひと・ヒト・人 ベスト・エッセイ続」ちくま文庫再録

令和6年 1月7日(日)

時間 14:00 ~ 16:30

会場 八戸ポータルミュージアム
はっちシアター2

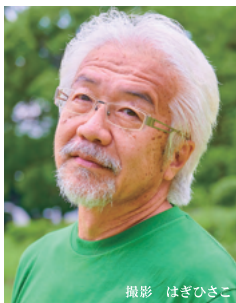
申込 八戸ブックセンター
受付 TEL 0178-20-8368

無料
(要申込)

WEB申込受付



パネリスト



すが けいさく
管啓次郎 詩人 比較文学者

詩人、比較文学研究者。明治大学理工学部教授(批評理論)。現在、ミネソタ大学アジア中東研究学科客員主任教授。『斜線の旅』(インスクリプト)にて読売文学賞受賞(2011)。最近の著書として『エレメンタル』(左右社)『本と貝殻』詩集『一週間、その他の小さな旅』(以上、コトニ社)がある。東日本大震災のあと、小説家・古川日出男らと朗読劇『銀河鉄道の夜』を制作、これまでに2017年の八戸公演を含め各地で20回以上上演。2021年春、無観客上演された古川作・演出の『コロナ時代の銀河』の記録映像(河合宏樹監督)はYouTubeで公開されている。

- コロナ時代の銀河 -
朗読劇「銀河鉄道の夜」



人が人を支配し苦しめる。それに徹底的に抵抗しようとしたのが安藤昌益の思想でした。彼の時代の八戸を想像しながら、その意味を現代に転送してみる。そんな集いになればと思っています。

— 管啓次郎



きむら ゆうすけ
木村友祐 小説家

小説家。愛猫家。郷里・八戸の方言を取り入れた『海猫ツリーハウス』(集英社)でデビュー。演劇プロジェクト「東京ヘテロトピア」(Port Bの高山明氏構成・演出)に参加、東京のアジア系住民の物語を執筆。2014~2020年、管啓次郎氏の呼びかけで始まった、主流から外れた小さな場所や人々を大切に描いた作品を選ぶ『鉄犬ヘテロトピア文学賞』の選考委員。著書に『幼な子の聖戦』(集英社)、『イサの氾濫』(未来社)、温又柔氏との往復書簡『私とあなたのあいだーいま、この国で生きるということ』(明石書店)など。

安藤昌益に関心はあっても、昌益の独特な思想に踏み込むにはきっかけが必要だった。今回がそのきっかけであり、土に根ざした昌益の思想が現代のぼくらをいかに大きく揺さぶるのか、恐れつつ楽しみにしている。

— 木村友祐



やまうち あけみ
山内明美 社会学者

宮城教育大学教育学部准教授。専攻は歴史社会学、社会思想史。日本社会における東北地方の位置と社会構造について、とりわけ中央と地方の差延をめぐり文化的政治について研究している。近年は石渡博明氏を講師に迎え、月例での安藤昌益勉強会を開催し、北東北の思想についても勉強中。著書に『こども東北学』(イースト・プレス)、姜信子氏との往復書簡『忘却の野に春を想う』(白水社)など。

安藤昌益は江戸中期にあって、文字を持たない人びと、女性や子どもへの優しいまなざしを持っていました。そして、人間の法(さかしら)が天災や争いを引き起こすのだと考えていました。戦争やレイシズムが止まないこの世界に、安藤昌益を召喚する試みになればいいと思っています。

— 山内明美

世界初のエコロジスト - 安藤昌益とは -

世界最初のエコロジスト



安藤昌益資料館
Ando Shoeki Museum



翌日開催

安藤昌益一人芝居

令和6年

1月8日(月祝)

出立っ日

~高橋大和守 出奔す……

安藤昌益 八戸を出て比内二井田へ向かう~

14時00分開演 / 13時30分開場
八戸市公民館ホール (八戸市公会堂文化ホール)

入場無料(要整理券) / 整理券配付場所

※令和5年12月1日(金)10時~配付開始

・八戸ブックセンター (お一人様)

・八戸市公会堂 (2枚まで)

出演・作 梶谷 伸夫 まさやのおお



八戸市公民館々長。演劇集団ごめ企画代表。八戸童話会々長。鮫神楽保存会々長。2023年4月で放送23年6000回を突破したラジオ番組「おもしろ南部弁講座」(BeFM)出演をはじめ、南部昔口語りの実演・指導など、永年にわたる南部弁の保存・継承に尽力した功績により2022年度文化庁長官表彰、2023年第76回東奥賞受賞。著書に、八戸の歴史的事件・人物を戯曲化した「海村」「赤い海」「美濃屋乙因」「霧笛哭く街にて」を収めた戯曲集『海村』(門土社)のほか、責任編集『南部昔口集』1&2、方言会話集CD『あのなっす南部弁』(以上、(株)アート&コミュニティ)がある。

